

明治時代の英語教科書に関する一考察 — 『ユニオン読本』に焦点をあてて—

A Study of English Textbooks in the Meiji Era in Japan:
Focusing on *Sanders' Union Readers*

言語教育研究科 言語教育学専攻

博士後期課程 2年

升井 裕子

要約

本研究は、明治時代の英語教科書に関する研究の一環であり、明治時代の旧制中学校で使用された舶来五大リーダー¹⁾のひとつである *Sander's Union Readers* (以降、*Union* と省略する) に焦点を当てるものである。*Union* は第 1 読本の段階で既に複数の韻文が登場し、難易度が増すにつれ、韻文を扱う課が増えていく。この傾向は、同時代に広く使用された読本、例えば *New National Readers* (以下、本稿では *NNR* と省略する) や *Willson Readers* (以下、*Willson* と省略する) においても顕著である。*Union* に掲載された韻文 (詩作品) と散文の数を比較すると、第 3 読本までは韻文よりも散文の占める割合が多かった。しかし第 4 読本では、韻文と散文はほぼ同数で現れる。第 5 読本になると韻文の掲載数は散文に負けるものの、散文と韻文の混じったものの割合が増えるため、読本を通観すると韻文に触れる回数が多いという印象を受ける。韻文が多く掲載されることで、韻文の持つ文学性そのものが読本全体の文学的な要素を強める一因となっていると考えられる。

【キーワード】 *Sanders' Union Readers*、明治時代、英語教科書、旧制中学校

1. はじめに

これまでに筆者は、*NNR* と *Willson* について考察を進めてきた。特に、教科書に掲載された作品の題材について「文学的内容 (物語や韻文)」あるいは「教養的内容 (歴史、科学、文化等に関する説明文)」という視点から教科書を量的に分析した小篠・中村 (2001) を参考に、*NNR* や *Willson* の持つ文学的性質を明らかにしようと試みた。

NNR に関する研究 (升井, 2023) は、*NNR* 第 4 読本と第 5 読本の中に掲載された作品とその作家に関する考察である。*NNR* に掲載された作品の原文を可能な限り探し出し、

作家名が記載されていない作品の書き手を明らかにした。そして、特定された原文と教科書に掲載された文の比較を通し、書き換えの程度やその特徴について考察した。その結果、題材内容に焦点を当てた場合、*NNR* は全体的に文学的性質が強いという結論に達した。加えて、*NNR* に掲載された韻文と散文の割合を考慮すると、韻文の占める割合の高さが「*NNR* は文学的性質が強い教科書である」という印象を強めている可能性を指摘した。

NNR の文学的性質についての考察をより発展させるためには、同時代に使用された教科書との比較が不可欠である。そこで、*NNR* に続く *Willson* に関する研究 (升井, 2023) に着手した。*Willson* は、第 1 読本から複数の韻文掲載が確認できたため、第 1 読本から順に考察を始めた。教科書の文学的性質を強めるひとつの要因が韻文であるなら、*Willson* は第 1 読本という早い段階から文学的な内容が多く見られのではないかと仮定した。しかし、*Willson* 第 1 読本と第 2 読本に関して言うと、実際には讃美歌からの引用が多く、文学的内容よりも宗教的内容が際立っていることが明らかであった。

本稿は、明治時代の旧制中学校で広く使用された舶来五大リーダーのうち *Union* に焦点を当てる。同時代に使用された *NNR* や *Willson* との比較も踏まえて、*Union* に掲載された作品と作家について分析、検討する。*Union* は、舶来リーダーの中では *NNR* に次いで使用が多く、明治以降、特に第 4 読本は単独での使用が目立ち、副読本のように使用されていた可能性が高い。詳細は後述するが、*Union* が副読本的な扱われ方をしてきた可能性も考えると *Union* を研究する意義は高いと思われる。

2. 先行研究

明治初期から戦前までの旧制中学校で用いられた英語教科書を俯瞰的に検討した研究に、大村・高梨・出来 (1980) がある。戦前に使用された個々の教科書に焦点を当てた研究は、特に *NNR* に関する研究の数が際立っている。例えば、石井 (2002)、林 (2006)、下田 (2006) 等の研究がそれに当たる。*NNR* 以外の教科書を単独で扱った研究は少ないが、複数の教科書に焦点を当てた研究に高梨・出来 (1993) と小篠・江利川 (2004) がある。前者は、幕末から明治初期にかけて多くの学校で使用された *Willson* から戦前の H. E. Palmer の *The Standard English Readers* に至るまでの教科書に関する質的研究である。この中で取り上げられた教科書のひとつに *Union* があり、第 3 読本と第 4 読本の特徴について分析している (表 1)。さらに、第 4 読本から複数の課を取り上げ、それらの内容に

ついて検討した（高梨・出来, 1993, pp.55-61）。

<i>Union</i> 第3読本	<i>Union</i> 第4読本
<ul style="list-style-type: none">・ 内容はほとんど全て道徳的教材。・ 内容は子どもを中心とした話が多い。	<ul style="list-style-type: none">・ 第三読本より程度がずっと高い。・ 子どもの話ではなく、大人になろうとする少年少女のための話。・ 挿絵が全くない。・ 英文が難しくなる。

表 1. *Union* 第3読本、第4読本に関する特徴まとめ（高梨・出来, 1993, pp. 53-54）

後者は、英語教科書史において重要な 16 種の教科書²⁾ について質的分析 (pp.27-32) と量的分析 (pp.110-114) を試みた。この中で *Union* については、プリマーから第6読本までの計7冊を分析している。本稿の「5. 考察」の項では、小篠・江利川 (2004) の「第3章 英語教科書の質的分析」を参照した。

上で述べた以外に、*Union* を単独で扱った研究は少ない。ただし、*Union* 読本独習書に関する研究に馬本 (2016) がある。

3. アメリカにおける *Union*

3.1 著者 チャールズ・ウォルトン・サンダース

サンダース (Charles Walton Sanders, 1805-1889, アメリカ合衆国の教育者) は、多数の教科書や読本の執筆者、編纂者として知られている。*Union* は、サンダースの著した数多くの教科書のひとつであり、アメリカの英語母語話者のために編纂された教科書である。

3.2 使用状況

舶来5大リーダーに数えられているように *Union* は明治期の日本で広く使用されたが、管見の限り、本場アメリカにおける *Union* の使用状況について調査した研究はない。唯一 Skrabec (2009) がマクガフィー (William McGaffey) に関する研究の中で、*Union* はアメリカ東部での売り上げが多かった点を指摘している (Skrabec, 2009, p.159)。

日本における *Union* の使用状況について考察する前に、当時のアメリカでの *Union* の使用状況を確認した。例えば、ニューヨーク州オーバーン (Auburn) の公立学校では *Union* 第1読本から第5読本までの使用が確認できた (Auburn Board of Education, 1873, p. 72, pp.86-87, p.98, p.99)。ウィスコンシン州のオシュコシュ (Oshkosh) では、*Union* プリマーから第4読本までの使用が確認できた (Oshkosh Board of Education, 1879, p.31)。ニ

ュー・ジャージー州のニューアーク (Newark) の教育委員会の年次報告書によると、ニューアークでは、*Union* 第 1 読本から第 4 読本までの使用が確認できた (Newark Board of Education, 1866, p.47)。

4. 日本における *Union*

4.1 使用状況

日本で *Union* は『ユニオン讀本』、『ユニオン・リードル』、『ユニオン・リーダー』、『サندان氏讀本』等の呼び名で親しまれていた。日本国内で多くの *Union* 獨案内が出版されていたことから、当時 *Union* が広く読まれていたことが推測できる。独習書データベース (馬本, 2014) によると、明治から大正にかけて実に 61 冊もの *Union* 独習書が確認できる。*Union* 独習書の数は、舶来 5 大リーダーの中でも上位に位置する。³⁾

表 2 は、*Union* の採択状況について、保坂・升井 (2023) の調査結果をもとにまとめたものである。

この旧制中学校で使用された教科書に関する実証的な研究では、明治初期から昭和 20 年 (戦前) までを 5 つの時代⁴⁾ に区分し、各時期に各府県の (尋常) 中学校で使用された教科書の種類と採用数について調

時代区分	<i>Union</i> 採択率
第 1 期 明治初期～明治 18 年	19%
第 2 期 明治 19 年～明治 27 年	5%
第 3 期 明治 28 年～大正 13 年	6%

表 2. *Union* の採択率
(保坂・升井, 2023)

査した。第 1 期から第 3 期にかけて、複数の旧制中学校において *Union* の採用が見られた。各中学校における *Union* の具体的な使用状況について、4.1.1 以降にまとめる。なお、教科書の表記は、参照先に書かれている通りに引用した。

4.1.1 第 1 期 (明治初期～明治 18 年)

群馬県中学校教科用図書表 (明治 17 年) の「英語之部」に「サンダー読本自一至四 (四冊)」とある。明治 15 年 8 月に出版された岡本直吉翻刻を使用していた。同年の初等中学教科用書各級配当表によると、第 1 年 (第 10 級) でサンダル第 1 読本、第 1 年 (第 9 級) でサンダー第 2 読本、第 2 年 (第 8 級と第 7 級) でサンダー第 3 読本、第 3 年 (第 6 級と 5 級)、第 4 年 (第 4 級) でサンダー第 4 読本が使用された (『前橋高校八十七年史』上巻, pp.137-139)。

東京府中学校の明治 16 年 7 月 13 日付の東京府中学校規則に添付された教科書用図書表によると、初等中等科「英語之部」に「米人サンター氏著 (1879 年) 読本、第 1、第 2、2

冊」とある（『日比谷高校百年史』上巻, p.663）。

大阪第一番中学校の明治 14 年東区中学校学科課程表下等の「英学（毎週 6 時）」の欄には、第 3 級でユニオン氏第 1 読本、第 2 級でユニオン氏第 2 読本、ユニオン氏第 3 読本、第 1 級でユニオン氏第 3 読本と記載されており、ユニオンの第 1 読本から第 3 読本までが連続して使用されていたことがわかる（『北野百年史』, p.153）。

山口県立山口中学校の明治 17 年の学科課程表には、初等中学科（4 年制）の第 2 年前期（第 6 級）と後期（第 5 級）にサンダル氏第 3 リードル、第 3 年前期（第 4 級）と後期（第 3 級）にサンダル氏第 4 リードル、第 4 年前期（第 2 級）と後期（第 1 級）にサンダル氏第 5 リードルと記載されている。なお、第 1 年前期（第 8 級）はウィルソン氏第 1 リードル、後期（第 7 級）はウィルソン氏第 2 リードルと記載されている。（『山口県立山口高等学校百年史』, p.42）。高等中学科では、第 1 学年前期（第 4 級）でサンダル氏第 6 リードルが使用された（『山口県立山口高等学校百年史』, p.44）。山口中学校のリーディングの授業は、*Willson* から始まり *Union* へと移行した。

4.1.2 第 2 期（明治 19 年～明治 27 年）

滋賀県尋常中学校では、明治 20 年の「滋賀県尋常中学校第一年報」によると、第 1 年（第 5 級）と第 2 年（第 4 級）では、ナショナル第 3 読本とローヤル第 4 読本が使用された。第 3 年（第 3 級）ではロイヤル第 4 読本と共にサンダー第 4 読本が使用された（『彦根東高百年史』, p.209）。

京都府尋常中学校では、仮教科用図書各級配当表（明治 22 年）によると、予備科でニューナショナル第 1、第 2、第 3 読本、第 5 級でニューナショナル第 3、第 4 読本、第 4 級でニューナショナル第 5 読本とユニオン第 4 読本が使用されていたようである（『京一中洛北高校百年史』, p.127）。

姫路中学校の仮教科用書各級配当表（明治 25 年度）には、第 5 級にニューナショナルリーダー第 2、第 3、第 4 級にニューナショナルリーダー第 3、第 4、第 3 級にロングマンリーダー第 4 とニューナショナルリーダー第 5、第 2 級にユニオンリーダー第 4 と記されている（『姫中・姫路西高百年史』, p.76）。

島根県尋常中学校では、明治 21 年の英文解釈の授業で、アービング氏スケッチブック、ゴードスミス氏ピーカー、クライヴ、ヘスチングス、フレデリック王、セルフヘルプ、ロイヤル第 4、5、6 読本、ユニオン第 4 読本が使用された（『松江北高等学校百年史』, p.286）。

岡山県尋常中学校では、明治 27 年度に、1 年級でローヤル第 3 とスター第 4、2 年級で

スター第 5、3 年級でユニオン第 4 が使用されている（『尚志会雑誌』, p.11）。

第 2 期の *Union* 使用状況を見ると、その多くは第 4 読本だけを単独で用いている。つまりこの時期の *Union* は副読本のように使用された可能性が高いと思われる。

4.1.3 第 3 期（明治 28 年～大正 13 年）

岩手県立盛岡中学校教科用図書一覧表（明治 34 年）によると、1 年級でスキントン・プリーマー及第 1、第 2 読本、2 年級でスキントン第 2、第 3 読本、3 年級でロングマン第 3、第 4 読本、4 年級でスキントン第 4、5 読本、そして 5 年級でユニオン第 4 読本抄が使用された（『白亜校百年史通史』, p.186）。

宮城県立第一中学校では、明治 34 年に使用された教科書に、スキントンプリーマー、スキントン第 1 リーダー、第 3 リーダー、第 4 リーダー、そしてユニオン第 4 リーダーがあった（『仙台一中、一高百年史』, p.27）。

東京府立第一中学校では、中学校 5 か年間（明治 31 年度から 35 年度）の年度別品目別単価表（34 年度）に「ユニオンリーダー抜抄」と書かれている（『日比谷高校百年史』, p.85）。

松本中学校では、明治 29 年にニューナショナル第 1、2、4 読本、文部省正則英語読本第 3 巻、ユニオン第 4 読本が使用された（『長野県松本中学校長野県松本深志高等学校九十年史』, p.177）。

高知県尋常中学校では、明治 28 年に 4 年級と 5 年級でユニオン氏第 4 読本の使用が見られた（『高知追手前高等学校資料集第一巻』, p.134-135）。

第 3 期においても *Union* 第 4 読本の単独使用が多く見られた。

4.2 *Union* 使用状況のまとめ

第 1 期に *Union* の使用が見られた 4 校は、第 1 読本から順に使用し、学年が上がるごとに読本のレベルを上げ、継続して使用している。ところが、第 2 期に入ると *Union* を継続して使用する学校は少なくなる。使用が見られた 5 校では、第 4 読本のみを使用する傾向が見られた。ただし、*Union* 以外の読本を並行して使用していることから、*Union* 第 4 読本が副読本のように使用されていた可能性が考えられる。

「ユニオン読本は明治中期によく用いられたが、特に第四読本は大正時代まで愛読された」（高梨・出来, 1993, p.53）と言われるが、実際には、明治初期には第 1 読本からの連続使用が散見された。明治中期になると「妙に日本では第四巻読本が行われ」（池田, 1968, p.367）と指摘されるように、第 4 読本単独での使用が目立つようになる。「妙に」と言われ

るように、その理由を明らかにした先行研究はない。保坂・升井（2023）は、その理由のひとつとして、当時の入学試験との関連を指摘した。*Union*に限らず、当時の読本の第4巻目は、入学試験のある種の指標となっていたと考えられる。例えば、東京書籍商組合員図書総目録（1925）には「受験生が必ず一度は緋くユニオン讀本は、實に入試問題の淵藪である」（p.301）と書かれている。*Union*が、当時の入試問題に大きな影響を与えていた可能性が考えられる。⁵⁾ この点については今後の課題とし、読本に掲載された作品と入学試験問題で使用された作品の相互的関連性という観点から考察を進めていきたい。⁶⁾

5. 考察

5.1 第1読本～第5読本 概観

Union シリーズは、プリマーから始まり、第1読本から第5読本、そして *Sander's Rhetorical, or Union Sixth Reader* と名付けられた第6読本まで続く。本研究では、入門書として位置づけられたプリマーと発展的な内容を含む第6読本は考察の対象としない。⁷⁾

各読本の概要を、小篠・江利川（2004, pp.27-32）の調査に基づいて整理した（表3）。参考までに *Union*、*NNR*、*Willson* の構成を比較したものを、注8 に記す。

<i>Union</i>	第1部（朗読法）	第2部	メモ
第1読本	第1部、第2部に分かれていない。 計82課（内、韻文は6）		
第2読本	第2部に分かれていない。第1課の前に、導入部として6頁にわたり練習問題が掲載されている。 計80課（内、散文62、韻文16、散文+韻文2）		
第3読本	5節（全14頁）	計73課（内、散文52、韻文19、散文+韻文2）	挿絵は3～4課にひとつ。
第4読本	5節（全34頁）	計121課（内、特別抜粋中の作品を含めると、散文71、韻文68、散文+韻文3）	挿絵なし。原則として原文主義。改稿（Adapted）されたものは8篇で全て散文。
第5読本	5節（全47頁）。	計154課（内、特別抜粋の作品を除くと、散文78、韻文67、散文+韻文5）	全面的に改稿された課はない。

表3. *Union* 第1読本から第5読本の概観まとめ（小篠・江利川，2004，pp. 27-32）

5.2 文体比較

第1読本から第3読本までは、会話文で構成されている課がある。江利川・小篠（2004）では、会話文は散文に含まれているようである。第1読本では、計5課が会話文（52課、60課、71課、74課、80課）であり、第2読本では、計7課が会話文（1課、11課、21課、37課、48課、58課、63課）である。第3読本では、計8課が会話文（5課、10課、17

課、25 課、30 課、40 課、53 課、61 課) である。

各読本の散文(会話文)、韻文、散文+韻文の数を比較した(表4)。

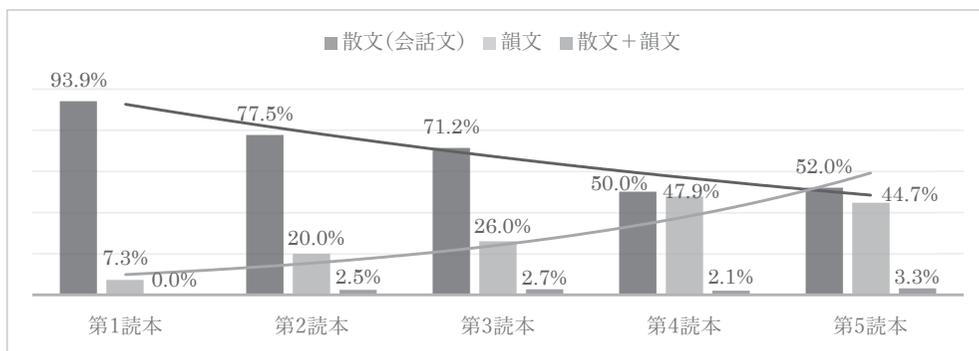


表4. Union 第1読本～第5読本の比較

難易度が増すにつれ、韻文の割合が増す。韻文の割合が高くなると、読本全体の文学的性質が強くなる(升井, 2023)。第3読本までは散文の占める割合が高かったが、第4読本になると、散文と韻文の数は僅差となる。第4読本からは、挿絵と各課の冒頭にあった単語の導入がなくなり、大人向けの読本という印象が強くなる。

5.3 作家

5.3.1 第1読本の作家

韻文以外の著者名は不明である。第1読本に掲載された韻文の作家名は77課のみ特定することができた。その他は特定できなかったが、72課と81課の作品は他媒体に掲載が確認できた(表5)。

課	題名	作者の詳細・その他
72	なし	作家名は特定できなかったが、作品は <i>The Child Paper</i> (July, 1854) や <i>The Children's Picture Magazine</i> (November, 1866) に“Love Each Other”という題名で掲載されていた。
77	なし	<i>The Christian Monitor</i> (February, 1878) によると、作者はスミス (Mary Smith, 詳細不明) と記載されている。
81	A Little Child Maybe Useful	作家不詳。複数の雑誌に「子どものための讃美歌 (Hymn for Children)」として掲載されている (<i>Sunday School Union</i> , 1855, p.190)。

表5. 第1読本に掲載された韻文の作者名

5.3.2 第2読本の作家

韻文作品については、ある程度、作家の特定を行うことができた。作家名が判明した韻文

のみ表 6 にまとめた。作者名は判明したものの、その詳細が明らかでない作家もいる。

課	題名	作者の詳細他
12	My Darling Brother	ダンカン (Mary Lundie Duncan, 1814-1840) スコットランドのケルソー (Kelso) 出身の詩人である。讃美歌の作者としても活躍した。“My Darling Brother”は、 <i>Rhymes for my children</i> (1842) に収録されている。
22	Little Things	カーニー (Julia Abigail Fletcher Carney, 1823-1908) アメリカの教育者、詩人である。Sadie Sensible や Minnie May のペンネームで知られている。
31	The Boy and his Dog	不明。 <i>Sanders' New Speller, Definer and Analyzer</i> のエクササイズ 190 (Reading Lesson) に同じ韻文が掲載されている。
38	The Spring Time	ストダート (Mary Ann Stodart, 1808-1866, 詳細不明)
45	Lily's Happy Home	ホイット婦人 (Mrs. Hoyt, 詳細不明)
67	I Can't	ボーン (William Oland Bourne, 1819-1901) アメリカの社会改革主義者、作家、ジャーナリスト。
71	The Boy and the Robin	スレイド (Mary Bridges Canady Slade, 1826-1882) アメリカの教育者、作曲家。
72	A Water Song	バンゲイ (George W. Bungay, 1818-1892) アメリカの詩人、ジャーナリスト、奴隷解放論者と禁酒運動家として活動した。
75	Secrets of Nature	チャイルド (Lydia Maria Child, 1802-1880) アメリカの奴隷解放論者、小説家。

表 6. 第 2 読本に掲載された韻文の作者名

5.3.3 第 3 読本作家

韻文の作家について表 7 にまとめた。散文の作家については、作家名は特定できないものの、当時の雑誌や新聞への掲載が確認できた作品がある。例えば、30 課の“The Two Play Mates”は、*Two Hundred Stories and Select Pieces for Children* (1846) に“The Story of Edward Lyon, or Confessing a Fault”という題名で掲載されている (pp.97-100)。

課	題名	作者の詳細
11	Little Things	ジョーダン (Cornelia J. M. Jordan, 1830-1898) アメリカの詩人。 <i>Little Things</i> は <i>Flowers of Hope and Memory</i> (1860) に収録されている。
15	Little Deeds of Kindness	アルスタイン (Frances Jane van Alstyne, 旧姓 Crosby, 1820-1915) アメリカの詩人、作詞家、作曲家。伝道師としても活動した。クロスビー (Fanny J. Crosby) の名で知られる。 <i>Little Deeds of Kindness</i> は、ブラッドベリー (William Batchelder Bradbury, 1816-1868, アメリカの音楽家、賛美歌作家) の <i>Bradbury's Golden Chain and Shower for the Sabbath School</i> に収録されている (Bradbury, 1866, p.100)。
20	Work and Play	ストダート (Mary Ann Stodart, 1808-1866) 冒頭の“Work while you work, and play while you play”は、東京高等蠶絲學校の昭和 5 年度の入学試験問題 (英文和訳) で出題されている (『官立学校入学試験問題』, 1930, p.74)。

課	題名	作者の詳細
46	The Boy and the Butterfly	ベイチュ (Anna Bache, 詳細不明) の作品で、“Emily and the Butterfly”という題名で、 <i>Clara's Amusements</i> (1853, pp.232-233) に収録されている。
52	Mary and her Pet Squirrel	ウッドワース (Francis Channing Woodworth, 1812-1859) アメリカの作家) の作品で、 <i>The Squirrels and Holiday</i> という題名で掲載されている。
57	The Child and the Angels	スウェイン (Charles Swain, 1801-1874) イギリス北西部の都市マンチェスター (Manchester) 生まれの詩人、彫刻家。
67	The Little Boy that Died	ロビンソン (Joshua D. Robinson, 詳細不明)
71	Battle Song for Freedom	ドッジ (Mary Abigail Dodge, 1833-1896) アメリカの作家で、ハミルトン (Gail Hamilton) の名で知られる。

表 7. 第 3 読本に掲載された韻文の作者名

5.3.4 第 4 読本作家

第 4 読本から目次に著者名が明示されたが、全ての作品の作家名が明らかにされているわけではない。作者がわからないもの、作者名が掲載されていないものが合計 36 篇ある (小篠・江利川, 2004, p.30)。36 篇のうち、本調査により作家名が判明した作品を表 8 に示す。

課	題名	作者の詳細
9	The American Boy	ヒューイット (Eliza Edmunds Hewitt, 1851-1920) アメリカの賛美歌作家、教師、長老派教会員である。
13	Careless Words	シップトン (Anna Shipton, 1815-1901) イギリスの宗教作家。キリスト教に関係する詩やエッセイを執筆した。
41	The Drunkard's Daughter	作家不詳であるが、注に“By a young lady”とある。
55	I Can	ポーター (Charles Leland Porter, 詳細不明)
69	The World Would be the Better for It	コーブ (M. H. Corb, 詳細不明)
121	The Lost One's Lament	ワトソン (Joseph Warren Watson, 1849-1872) アメリカの詩人。

表 8. 第 4 読本に掲載された韻文の作者名

第 4 読本になると、ホーソン (Nathaniel Hawthorne, 1804-1864, アメリカの小説家)、ロングフェロー (Henry Wadsworth Longfellow, 1807-1882, アメリカの詩人)、ゴールドスミス (Oliver Goldsmith, 1728-1774, アイルランド生まれの詩人、劇作家) らの作品が登場する。

76 課と 111 課には「特選抜粋 (Choice Extracts)」が設けられている。いずれの課も、韻文と散文が交互に掲載されている。76 課の韻文と散文の掲載数は、韻文 6、散文 6 の同数であり、111 課では韻文 4、散文 5 であった。

5.3.5 第5読本の作家

第5読本も第4読本同様、全ての作家が明示されているわけではない。作家名が判明したものを表9に示す。

課	題名	作者の詳細
18	Sunshine and Showers	M. E. T. (詳細不明) の <i>Sunshine and showers. Stories for the children of England</i> (1851) の一節である可能性が高い。M. E. T.について “The Author of Silver blossoms to produce golden fruits”と説明がある。Silver Blossoms to Produce Golden Fruitsを参照すると“The Author of Spring Flowers and Blossoms”と説明がある。このことから、当時 M. E. T. が盛んに執筆を行っていたことがわかる。
56	Choice Extracts: II. Lament of and Indian Chief	スクールクラフト (Henry Rowe Schoolcraft, 1793-1863) アメリカの地理学者、民俗学者。5連から成る詩作品 <i>Geehale: Lament of and Indian Chief</i> の第2連目と第5連目の最後の2行が抜粋されている (Lanman, 1871, pp.482-483)。
	III. Effects of Our Deeds	カミング (Rev. John Cumming, 1807-1881) コヴェントガーデンの National Scottish Church で影響力を持った牧師 (The Victorian Web, 2002)。 <i>Voices of the Dead</i> (1852) から抜粋。
57	Earnestness	ハワード (Roger S. Howard, 詳細不明)。 <i>Earnestness</i> (American Institute of Instruction, 1850, pp.59-77) から抜粋。
59	And Then?	<i>Portland Transcript</i> (March 12, 1859) や <i>The Oberlin Evangelist</i> (July 6, 1859) に掲載が見られ “From Journal of Commerce”と追記されている。 <i>Journal of Commerce</i> は、1827年から発行され、現在まで続いている雑誌。
79	Another Year	ランドルフ (Anson Davies Fitz Randolph, 1820-1896) <i>The Changed Cross, and Other Religious Poems</i> (1861) に収録の “For the New Year”という題名の韻文である。
108	Choice Extracts: III. Progress	ゲンツ (Friedrich von Gentz, 1764-1832) ドイツの政論家。
139	Choice Extracts: II. The Honey Bee	ボッタ (Anne Charlotte Lynch Botta, 1815-1891) アメリカの詩人。
139	V. Advance of Science	ハレ兄弟 (Julius Charles Hare, 1795-1855, イギリスの神学者; Augustus William Hare, 1792-1834, イギリスの作家) の共著 <i>Guesses at Truth</i> (1848) からの抜粋 (pp.40-41)。
154	Choice Extracts: III. Clear the Way	マッケイ (Charles Mackay, 1814-1889) スコットランド出身の詩人。“Clear the Way”は3連から成る韻文。第1連と第2連の各冒頭6行を削除したものが掲載している。

表9. 第5読本に掲載された韻文の作者名

第5読本になると、アービング (Washington Irving, 1783-1859, アメリカの作家) やミルトン (John Milton, 1608-1674, イギリスの詩人)、ポープ (Alexander Pope, イギリスの詩人)、シェイクスピア (1564-1616, イギリスの劇作家、詩人)、ワーズワス (William Wordsworth, 1770-1850) らの作品が掲載された。

第4読本と同じように「特選抜粋」(56課、108課、139課、154課) が設けられており、

それらを含めると非常に多くの文学作品が散見される。ここでも、韻文と散文が交互に掲載されている。56 課の韻文と散文の掲載数は、韻文 5、散文 5、108 課は韻文 6、散文 6、139 課は韻文 5、散文 5、154 課は韻文 5、散文 4 であった。

5.4 特選抜粋 (Choice Extracts)

5.4.1 第 4 読本

第 4 読本の「特選抜粋」は 76 課と 111 課に配置され、76 課で紹介される作品の数は 12 (表 10)、111 課では 9 (表 11) である。

76 課	題 名	作家の詳細
I	What Really Benefits Us	作家不詳
II	God's Love	作家不詳
III	Life Work	ムーディ (William Moodie, 1759-1812, スコットランドの牧師) の Sermons, to Which is Prefixed a Short Account of the Author (1813) に収録されている "Sermon XVII" の一部分を抜粋したものが掲載されている。
IV	Humility	作家不詳
V	Benefits of Adversity	バートン (Richard E. Burton, 1821-1890) ヨーロッパ人として初めてタンガニーカ湖を発見。これまで禁じられていたイスラム教の都市に潜入したイギリス人学者である。探検家、東洋学者としても知られる。
VII	Make a Beginning	作家不詳
VIII	Influence	バンガイ (George W. Bungay, 1818-1892) イギリス生まれ。1827 年に家族でアメリカへ渡った。詩人であり、ジャーナリストでもある。奴隷廃止運動や禁酒運動に加わった。
IX	Pleasure in Acquiring Knowledge	オルヌ (Caroline F. Orne, 1818-1905) アメリカの詩人。
X	What is Fame?	マザウェル (William Motherwell, 1797-1835) スコットランド、グラスゴー生まれの詩人。
XI	Cultivated Intellect	作家不詳
XII	God's Works Attest His Greatness	オーピー (Amelia Opie, 1769-1853) 旧姓はオールダーソン (Alderson)。1828 年までのロマン主義時代に多くの小説を発表したイギリスの作家。奴隷制度廃止論者でもあった。

表 10. 76 課「特選抜粋」で引用された作家

76 課には、作家名の記載がある作品とない作品があるが、調査の結果 III と VII は、おそらくそれらの作家であろうという人物が特定できた。

111 課	題 名	作家の詳細
I	Swiftness of Time	Idler と記載がある。Idler は 1758 年から 1760 年にかけてロンドンの週刊誌 <i>The Universal Chronicle</i> に掲載されたエッセイ。エッセイの内 12 篇がジョンソン博士 (Samuel Johnson, 1709-1784, イングランドの文学者) によって書かれたものである。
II	The Ship of State	ロングフェロー (Henry Wadsworth Longfellow, 1807-1882) アメリカの詩人。
III	The True Hero	ブッシュネル (Horace Bushnell, 1802-1876) アメリカの会衆派牧師、神学者。
IV	Heart Essential to Genius	シムズ (William Gilmore Simms, 1806-1870) アメリカ南部出身の詩人、小説家、政治家。
V	Education	アディソン (Joseph Addison, 1672-1719) イギリスの詩人、劇作家、文学者。
VI	Vanity of Wealth	ジョンソン博士 (Samuel Johnson, 1709-1784)
VII	Consolation of the Gospel	アレクサンダー (Dr. Archibald Alexander, 1772-1851) アメリカの神学者。
VIII	The Light of Hope	ピーボディ (Oliver William Bourn Peabody, 1799-1848) アメリカ、マサチューセッツ州スプリングフィールド (Springfield) のユニテリアン派の牧師であり、作家であった。
IX	Pampering the Body and Starving the Soul	エヴァレット (Edward Everett, 1794-1865) 学者であり、雄弁家 (Orator)。

表 11. 111 課「特選抜粋」で引用された作家

第 4 読本の「特別抜粋」に取り上げられた作家の多くについて、その詳細は *Dictionary of American Biography* (1879) に掲載されていた。アメリカ人作家だけに限らず、スコットランドやイギリスの作家も多く取り上げられている。

5.4.2 第 5 読本

第 5 読本の「特別抜粋」は 56 課 (表 12)、108 課 (表 13)、139 課 (表 14)、154 課 (表 15) に配置され、56 課で紹介される作品の数は 10、108 課は 12、139 課は 10、154 課は 9 である。

56 課	題 名	作家の詳細
I	Decay of the American Indians	スプレイグ (Charles Sprague, 1791-1875) アメリカ、ボストン生まれの詩人。
II	Lament of an Indian Chief	スクールクラフト (Henry Rowe Schoolcraft, 1793-1863) アメリカの地理学者、民俗学者。
III	Effects of Our Deeds	カミング (Rev. John Cumming, 1807-1881) コヴェントガーデンの National Scottish Church で影響力を持った牧師 (The Victorian Web, 2002)。 <i>Voices of the Dead</i> (1852) からの抜粋。
IV	Man's Mortality	ワステル (Simon Wastell, 1562-1632) アメリカの聖書学者。
V	Saving for Old Age	作家不詳

前頁からの続き

56 課	題 名	作家の詳細
VI	E Firm	メイヨ (Mrs. Sarah C. Edgerton Mayo, 1819-1848)
VII	The Young Voyage	バーンズ (Rev. Albert Barnes, 1798-1870) アメリカの神学者、聖職者、奴隷制廃止論者、禁酒運動を擁護した。
VIII	Voyage of Life	ウェア (Henry Ware, Jun, 1794-1843) アメリカのユニテリアン派神学者。
IX	The Beauties of Nature	ムーディ (Susannah Moodie, 1803-1885) イギリス生まれのカナダ人作家。
X	Cheer Up	作家不詳

表 12. 56 課「特選抜粋」で引用された作家

108 課	題 名	作家の詳細
I	Personal Religion	ウェブスター (Daniel Webster, 1782-1852) アメリカの雄弁家、政治家。
II	The Beam of Devotion	モリス (George Pope Morris, 1802-1864) アメリカの編集者、詩人、作曲家。
III	Progress	作家不詳
IV	Love Due to the Creator	グリフィン (G. Griffin, 詳細不明)
V	Influence of Gold	アディソン (Joseph Addison, 1672-1719) イギリスの詩人、劇作家、文学者。
VI	Ingratitude	シェイクスピア (William Shakespeare, 1564-1616) イギリスの詩人、劇作家。ルネサンス演劇を代表する作家。
VII	The Bible	ウェイランド (Francis Wayland, 1796-1865) アメリカ、バプテスタ派牧師。
VIII	The Moments	エグルストン (J. L. Eggleston, 詳細不明)
IX	The War-Horse	ヨブ記 (Book of Job) と記載あり。欽定訳聖書ヨブ記 39 : 19-25。
X	Seclusion	ビーティー (James Beattie, 1735-1803) スコットランドの哲学者、詩人。“The Minstrel”の Book I から抜粋。
XI	The Power of Little Things	スマイルズ (Samuel Smiles, 1812-1904) イギリスの作家。自助論 (<i>Self-Help</i> , 1859) からの抜粋。
XII	Influence	ボルトン (Mrs. Sarah T. Bolton, 1814-1893) アメリカの詩人。

表 13. 108 課「特選抜粋」で引用された作家

139 課	題 名	作家の詳細
I	The Widow's Two Mites	ウェブスター (Daniel Webster, 1782-1852) アメリカの雄弁家、政治家
II	The Honey Bee	ボッタ (Anne Charlotte Lynch, 1815-1891) アメリカの詩人、作家。
III	Virtue	コルトン (Charles Caleb Colton, 1780-1832) イギリスの聖職者、作家。
IV	Happiness	ポーブ (Alexander Pope, 1688-1744) イギリスの詩人。 <i>Essay on Man</i> (1733-1734) からの抜粋。
V	Advance of Science	ハレ兄弟 (Julius Charles Hare, 1795-1855, イギリスの神学者; Augustus William Hare, 1792-1834, イギリスの作家) の共著 <i>Guesses at Truth</i> (1848) からの抜粋 (pp.40-41)。

前頁からの続き

139 課	題 名	作家の詳細
VI	The Struggle of Life	ビーティー (James Beattie, 1735-1803) スコットランドの哲学者、詩人。
VII	Antiquity	コルトン (Charles Caleb Colton, 1780-1832) イギリスの聖職者、作家。
VIII	Beauty	シェイクスピア (William Shakespeare, 1564-1616) と記載がある。 <i>The Passionate Pilgrim</i> (1599) に収められた 20 篇の詩の内、13 番目に掲載されたものが <i>Union</i> に掲載されている。20 篇の内シェイクスピアの作品であると判明しているのは 5 篇のみである。13 番は作家不詳である。
IX	Cunning and Discretion	アディソン (Joseph Addison, 1672-1719) イギリスの詩人、劇作家、文学者。
X	Procrastination	ペルシウス (Persius) と記載あり。

表 14. 108 課「特選抜粋」で引用された作家

154 課	題 名	作家の詳細
I	Bugle Song	テニスン (Alfred Tennyson, 1809-1892) イギリスの詩人。ヴィクトリア朝に活躍した。 <i>The Princess</i> (1847) からの抜粋が掲載されている。
II	The Age of Progress	サムナー (Charles Sumner, 1811-1874) マサチューセッツ州の政治家。
III	Clear the Way	マッケイ (Charles Mackay, 1814-1889) スコットランド出身の詩人。
IV	Our Sages and Heroes	スプレイグ (Charles Sprague, 1791-1875) アメリカの詩人。
V	The American Union	ウェブスター (Daniel Webster, 1782-1852) アメリカの雄弁家、政治家。
VI	Expulsion from Paradise	ミルトン (John Milton, 1608-1674) イギリスの詩人。
VII	Washington's Monument	ウインスロップ (Robert Charles Winthrop, 1809-1894) アメリカの法律家、慈善家。
VIII	The Lord our Provider	ワーズワス (William Wordsworth, 1770-1850) イギリスのロマン派を代表する詩人。
IX	Moral and Republican Principles	エヴァレット (Edward Everett, 1794-1865) アメリカの政治家。学者であり、雄弁家 (Orator) でもあった。

表 15. 154 課「特選抜粋」で引用された作家

第 5 読本の「特別抜粋」に取り上げられた作家には、イギリス文学において大家と呼ばれる作家の名が並ぶ。現代において英文学の古典として親しまれているポーブ、ジョンソン博士、ミルトンの作品が取り上げられているように、第 5 読本には、読み応えのある作品が並んでいる。

6. おわりに

明治時代に使用された読本の中でどのような文学作品が取り上げられているのかを明らかにするため、本稿では、*Union* 第 1 読本から第 5 読本で取り上げられた作品の作家名を明らかにすることを第一の目的とした。特定できた作家名は、表 5 から表 15 に示した通りである。

NNR (升井, 2023a) や *Willson* (升井, 2023b) の考察を通し、読本を占める韻文の割合だけで文学的であると結論付けることは安易であると思われた。しかし、*Union* の考察を通じ、*Union* 第 4 読本に入って韻文と散文の割合が均衡してくると、韻文の掲載数が増えるだけ著名な作家の作品も増える。そのため、韻文の持つ文学性が読本全体の文学的性質を強める一因となっている。

最後に、今後の課題を述べておく。本稿では、紙幅の関係上、原文と読本に掲載された文の書き換えについての考察を掲載することが叶わなかった。第 4 読本と第 5 読本に掲載された作品が、どの作品のどの部分から抜粋されたのか、そして原文と *Union* に掲載された文との間で生じた書き換えの度合いについて、引き続き考察を進めていく。

注

¹⁾ 小篠・江利川 (2004) によると、*NNR*、*Willson*、*Union*、*Swinton*、*Longman* が舶来 5 大リーダーと言われている。

²⁾ 16 種の教科書の内ふたつが舶来教科書であり *NNR* と *Union* が分析対象となっている。

³⁾ 馬本 (2014) の調査によると、舶来 5 大リーダーの独習書の数は、*NNR* (216 冊)、*Willson* (46 冊)、*Union* (65 冊)、*Swinton* (48 冊)、*Longman* (56 冊) であった。*NNR* の独習書の数が突出しているが、*Union* はそれに次ぐ人気であったと考えられる。

⁴⁾ 保坂・升井 (2023) は、先行研究や当時の教育制度や社会情勢を反映して、教科書の歴史的時代区分を次の通りとした。第 1 期：明治初期 (学制) から 1885 (明治 18) 年まで。第 2 期：1886 (明治 19) 年から 1894 (明治 27) 年まで。第 3 期：1895 (明治 28) 年から 1924 (大正 13) 年まで。第 4 期：1925 (大正 14) 年から 1939 (昭和 14) 年まで。第 5 期：1940 (昭和 15) 年から 1946 (昭和 21) 年まで。

⁵⁾ 正岡子規 (1867-1902) は、『墨汁一滴』の中で「それで十七年の夏休みの間は本郷町の進文学舎とかいふ処へ英語を習ひに往つた。本はユニオン読本 (とくほん) の第四で先生は坪内 (雄蔵) 先生であつた」と語っている。子規は、明治 16 年に松山中学を退学し、大学予備門受験のため上京した。同年 10 月に共立学校に入学し、明治 17 年 9 月に東京大学予備門に入学している。『墨汁一滴』に書かれた 17 年の夏休みとは、東京大学予備門に入学する前の月に当たる。

また、清水起正著『ユニオン第四譯本講義』の中で、「本書は中學四、五年の教科書として全國幾多の諸學校にて採用されつつあり、又受験準備用として英學生の必ず一讀すべきものである」(『官立学校入学試験問題』, 1830, p.95) と紹介されているように、*Union* 第 4 読本と当時の入学試験問題との関係性がうかがえる。

⁶⁾ 明治 24 年の『東京遊学案内』の高等師範学校の「英語科問題 (翻譯)」には、第 4 読本 111 課 V の “Education” が出題されている (p.200)。また、第 3 読本 20 課 “Work and Play” の冒頭、“Work while you work, and play while you play” は、東京高等蠶絲學校の昭和 5 年度の入学試験問題 (英文和訳) で出題されている (『官立学校入学試験問題』, 1930, p.74)。

7) 保坂・升井 (2023) で調査した結果、*Union* 第 6 読本の使用は見られなかった。明治 19 年に公布された中学校令で、6 年制から 5 年制に変更された。第 6 読本の使用が見られなかった理由は、中学校の修業年数と関係がある可能性が高い。

8) *Union*、*NNR*、*Willson* の構成比較

	<i>Union</i>	<i>NNR</i>	<i>Willson</i>
第 1 読本	82 課	第 1 部 (54 課) 第 2 部 (9 課) <hr/> 合計 63 課	第 1 部、第 2 部 (14 課) 第 3 部 (16 課)、第 4 部 (32 課) 第 5 部 (14 課) <hr/> 合計 76 課
第 2 読本	第 1 部 第 2 部 (80 課)	56 課	第 1 部 (15 課)、第 2 部 (15 課) 第 3 部 (18 課)、第 4 部 (17 課) 第 5 部 (18 課)、第 6 部 (19 課) 第 7 部 (5 課) <hr/> 合計 107 課
第 3 読本	第 1 部 第 2 部 (73 課)	100 課	第 1 部 (24 課)、第 2 部 (14 課) 第 3 部 (全 6 章 77 課)、第 4 部 (13 課) <hr/> 合計 128 課
第 4 読本	第 1 部 第 2 部 (121 課)	77 課	第 1 部 (24 課)、第 2 部 (38 課) 第 3 部 (21 課)、第 4 部 (24 課) 第 5 部 (9 課)、第 6 部 (11 課) <hr/> 合計 127 課
第 5 読本	第 1 部 第 2 部 (154 課)	100 課	第 1 部 (8 課)、第 2 部 (7 課) 第 3 部 (29 課)、第 4 部 (34 課) 第 5 部 (19 課)、第 6 部 (13 課) 第 7 部 (13 課)、第 8 部 (27 課) 第 9 部 (21 課)、第 10 部 (24 課) 第 11 部 (26 課) <hr/> 合計 221 課

参考文献

- 石井俊彦 (2002). 『ナショナル第一読本』の構成と言語材料』日本英語教育史学会『日本英語教育史研究』第 17 号, 77-93.
- 馬本勉 (2014). 「独習書データベース」『独習書の分析を通じた英語学習法の変遷に関する研究』広島県立大学ウェブサイト. https://www.pu-hiroshima.ac.jp/p/umamoto/stb/stb_db.pdf
- 馬本勉 (2016). 「ユニオン読本独習書に関する研究」日本英学史学会『日本英学史学会英学史研究 (43)』113 -115.
- 池田哲郎 (1968). 「二 英語教科書」『日本の英学 100 年 明治編』研究社.
- 大村喜吉・高梨健吉・出来成訓(編) (1980). 『英語教育史資料』第 3 巻, 東京法令出版.
- 小篠敏明・江利川春雄(編) (2004). 『英語教科書の歴史的研究』辞游社.
- 小篠敏明・中村愛人 (2001). 『明治・大正・昭和初期の英語教科書に関する研究—質的分析と解題—』溪水社.
- 『官立學校入學試験英語問題集: 昭和五年度』(1930). 東京: 北星堂. <https://books.google.com/books/download/%E5%AE%98%E7%AB%8B%E5%AD%B8%E6%A0%A1%E5%85%A5%E5%AD%B8%E8%A9%A6%E9%A9%97%E8%8B%B1%E8%AA%9E%E5%95%8F%E9%A1%8C%E9%9B%86.pdf?id=qxdIbuYNgIwC&output=pdf>

- 下田彰子 (2006).「*New National Readers* に託された精神: *National Readers* との比較考察」日本英語教育史学会『日本英語教育史研究』第 21 号, 1-20.
- 高木和介 (1887).『*Sanders' Union Reader*』no.2. 国立国会図書館デジタルコレクション. <https://dl.ndl.go.jp/pid/1084184>
- 高梨健吉・出来成訓 (1993).『英語教科書の歴史と解題』英語教科書名著選集・別巻大空社.
- 中学教育社編 (1898).『普通読書案内』中学書院. 国立国会図書館デジタルコレクション. <https://dl.ndl.go.jp/pid/897159>
- 出来成訓 (1986).「明治時代の英語教科書に学ぶ (1)」『日本英語教育史研究』第 1 号, 111-134.
- 出来成訓 (1994).『日本英語教育史考』東京法令出版.
- 『東京書籍商組合員図書総目録』(1925). 東京書籍商組合. 国立国会図書館デジタルコレクション. <https://dl.ndl.go.jp/pid/1869886>
- 『東京遊学案内: 明治 24 年』(1891).少年園. <https://books.google.com/books/download/%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%81%8A%E5%AD%A6%E6%A1%88%E5%86%85.pdf?id=4AAQPDXHmgcC&output=pdf>.
- 林亜希子 (2003).「ナショナル第五読本と大鴉」目白大学人文学部『目白大学人文学部紀要』第 9 号, 33-41.
- 林亜希子 (2004a).「ニュー・ナショナル第五読本--掲載作品と作家について」目白大学人文学部『目白大学人文学部紀要』第 11 号, 89-101.
- 林亜希子 (2004b).「ニュー・ナショナル第五読本 第 100 課 Edgar Allan Poe の“The Raven”について」日本英語教育史学会『日本英語教育史研究』第 19 号, 159-177.
- 保坂芳男・升井裕子 (2023).「旧制中学校の英語教科書(読本)採択に関する計量的研究」日本言語教育 ICT 学会『日本言語教育 ICT 学会研究会紀要』第 10 号, 95-106.
- 升井裕子 (2023a).「明治時代の英語教科書に関する一考察—『ウィルソン』 第 1、第 2 読本に焦点をあてて—」日本英学史学会東日本支部『東日本英学史研究』第 22 号, 50-65.
- 升井裕子 (2023b).「明治時代の英語教科書に関する一考察—ニュー・ナショナル・リーダーズ 第 4、第 5 読本に焦点をあてて—」拓殖大学大学院言語教育研究科『言語教育研究』第 23 号, 1-19.
- 正岡子規 (1927).『墨汁一滴』青空文庫. https://www.aozora.gr.jp/cards/000305/files/1897_18672.html.
- 『日曜学校 27(4)(312)』(1940). 日本日曜学校協会. 国立国会図書館デジタルコレクション. <https://dl.ndl.go.jp/pid/1490121>
- American Institute of Instruction. (1850). *Prize Essay and Lectures, Delivered Before the American Institute of Instruction at Montpelier. VT, August, 1849; Including the Journal of Proceedings*. Boston: Ticknor, Reed, & Fields. https://books.google.com/books/download/Prize_Essay_and_Lectures_Delivered_Befor.pdf?id=9QQ4AAAAMA AJ&output=pdf
- Atlantic Monthly: A Magazine of Literature, Art and Politics*. (1863). Boston: Ticknor and Fields. https://books.google.com/books/download/Atlantic_Monthly.pdf?id=n6xIAA AAcAAJ&output=pdf
- Auburn Board of Education. (1872). *Auburn Public Schools: Annual Report of the Board of Education, for the School Year Ending July 31, 1872*. https://books.google.com/books/download/Annual_Report_of_the_Board_of_Education.pdf?id=ScAsAQAA MAAJ&output=pdf
- Bache, A. (1853). *Clara's Amusements*. London: T. Nelson and Sons. https://books.google.com/books/download/Clara_s_Amusements.pdf?id=QksYAAAAYAAJ&output=pdf
- Boston Traveler*. (n.d.). Library of Congress. <https://www.loc.gov/item/sn84022244/>
- Bradbury, W. B. (1866). *Bradbury's Golden Chain and Shower for the Sabbath School*. New York: Henry A. Brown. Retrieved October 7, 2023. <https://books.google>.

- com/books/download/Bradbury_s_Golden_Chain_and_Shower_for_t.pdf?id=vWwVAAAAYAAJ&output=pdf
- Encyclopædia Britannica. (n.d.). <https://academic.eb.com>.
- Library of Congress. (n.d.). *Chronicling America: Historic American Newspapers*. <https://www.loc.gov/>.
- Child's Paper*. (1852). New York: The American Tract Society. https://books.google.com/books/download/Child_s_Paper.pdf?id=rtNOAAAAYAAJ&output=pdf
- Christian Henry Bateman. (1855). *The Lamp of Love*. London: Houlston and Stoneman. https://books.google.com/books/download/The_lamp_of_love.pdf?id=bAXEA LXI0fcC&output=pdf
- Cooper, S. F. (1850). *Rural Hours*. New York: George P. Putnam. https://books.google.com/books/download/Rural_Hours.pdf?id=1jAqAAAAYAAJ&output=pdf
- Cowles, H. ed. (1857). *The Oberlin Evangelist*. Oberlin: R. E. Gillett. https://books.google.com/books/download/The_Oberlin_Evangelist.pdf?id=GtROAAAAYAAJ&output=pdf
- Cumming, J. (1852). *Voices of the Dead*. London: John Farquhar Shaw. https://books.google.com/books/download/Voices_of_the_Dead.pdf
- Drake, F. S. (1879). *Dictionary of American Biography*. Boston: Houghton. https://books.google.com/books/download/Dictionary_of_American_Biography.pdf?id=6_kUAAAAYAAJ&output=pdf
- Gleason's Pictorial Drawing-room Companion*. (1851). Boston: F. Gleason. https://books.google.com/books/download/Gleason_s_Pictorial_Drawing_room_Compani.pdf?id=Rs3DNceDUXAC&output=pdf
- Goodwin, M. M. B. ed. (1878). *The Christian Monitor*. https://books.google.com/books/download/The_Christian_Monitor.pdf?id=x7XRAAAAMAAJ&output=pdf
- HARE, J. C. (1848). *Guesses at Truth, by Two Brothers: Second edition: with large additions. Second Series*. London: Printed for Taylor and Walton. https://books.google.com/books/download/Guesses_at_Truth_by_Two_Brothers_Second.pdf?id=2y5cAAAAcAAJ&output=pdf
- John Cunning: Introduction*. (2022) The Victorian Web. <https://victorianweb.org/religion/sermons/rhe12.html>
- Julian, J. (1892). *A Dictionary of Hymnology: Setting Forth the Origin and History of Christian Hymns of All Ages and Nations*. New York: Charles Scribner's Sons. https://books.google.com/books/download/A_Dictionary_of_Hymnology.pdf?id=nAktAAAAYAAJ&output=pdf
- Lanman, C. (1871). *The Red Book of Michigan: A Civil, Military and Biographical History*. Detroit: E. B. Smith and Company. https://books.google.com/books/download/The_Red_Book_of_Michigan.pdf?id=Xso6xrg_jrgC&output=pdf
- Mackay, C. (1859). *Ballads and Lyrics*. London: Routledge, Warne and Routledge. https://books.google.com/books/download/Ballads_and_Lyrics.pdf?id=-r4-AAAAIAAJ&output=pdf
- Moodie, W. (1813). *Sermons*. Edinburgh: Printed for the Editors. https://books.google.com/books/download/Sermons_to_which_is_prefixed_a_short_acc.pdf?id=AIYUAAAAQAAJ&output=pdf
- Newark Board of Education. (1866). *Annual Report of the Board of Education of the City of Newark*. Newark: Francis Starbuck. https://books.google.com/books/download/Annual_Report_of_the_Board_of_Education.pdf?id=OB3B7KyCBx0C&output=pdf
- Oshkosh Board of Education. (1879). *Annual Report of the Board of Education, and General Rules and Regulations, of the Public Schools of the City of Oshkosh*. Oshkosh: Allen and Hicks. https://books.google.com/books/download/Annual_Report_of_the_Board_of_Education.pdf?id=RAPe7LWwzLIC&output=pdf
- Portland Transcript*. (1858). Portland: Gould & Elwell. <https://books.google.com/books/do>

- wnload/Portland_Transcript.pdf?id=53wyr81f9ZIC&output=pdf
- Skrabec, Quentin. R. (2009). *William McGuffey: Mentor to American Industry*. New York: Algora Publishing.
- Sunday School Union*. (1855). *The Child's Own Magazine*. https://books.google.com/books/download/The_Child_s_own_magazine.pdf?id=-nQOAAAAQAAJ&output=pdf
- The Children's Picture Magazine*. (1866). London: Simpkin, Marshall, and Company. https://books.google.com/books/download/The_Children_s_Picture_Magazine.pdf?id=1HgOAAAAQAAJ&output=pdf
- Two Hundred Stories and Select Pieces for Children: Adapted to Lead Them to Love and Obey Their Parents, to be Kind and Obliging to Their Companions, and Merciful to Animals; Also, to Remember Their Creator*. (1846). Albany: J. Munsell. https://books.google.com/books/download/Two_Hundred_Stories_and_Select_Pieces_for_Children.pdf?id=_zBAAAAAYAAJ&output=pdf
- Woodworth, F. C. (1859). *Uncle Frank's Pleasant Pages for the Fireside: A Miscellany of Tales, Sketches, Travels, Biography, History, Fables, Anecdotes, Dialogues, Poetry, Etc.* New York: H. Dayton. https://books.google.com/books/download/Uncle_Frank_s_Pleasant_Pages_for_the_Fireside.pdf?id=U74XAAAAAYAAJ&output=pdf

学校史関係資料一覧（北から都道府県順で記載）

- 岩手県立盛岡第一高等学校校史編集委員会(編) (1981). 『白聖校百年史通史』岩手県立盛岡第一高等学校創立百年記念事業推進委員会.
- 仙台一中・一高百年史編纂委員会(編) (1993). 『仙台一中、一高百年史』宮城県仙台第一高等学校創立百年記念事業実行委員会.
- 前橋高等学校校史編纂委員会(編) (1964). 『前橋高校八十七年史 上巻』前橋高等学校.
- 日比谷高校百年史編纂委員会(編) (1979). 『日比谷高校百年史 上巻』日比谷高校百年史刊行委員会.
- 長野高校八十年史刊行会 (1980). 『長野高校八十年史』長野高等学校同窓会.
- 彦根東高等学校校史編纂委員会 (1996). 『彦根東高百二十年史』創立百二十年記念事業実行委員会.
- 校史編纂委員会 (1972). 『京一中洛北高校百年史』京一中 100 周年洛北高校 20 周年記念事業委員会.
- 大阪府北野高等学校校史編纂委員会(編) (1973). 『北野百年史—欧学校から北野高校まで—』大阪府立北野高等学校校史編纂委員会.
- 兵庫県立姫路西高等学校内「姫中・姫路西高百年史」編集委員会(編)(1978). 『姫中・姫路西高百年史』姫中・姫路西高創立百周年記念事業委員会.
- 松江北高等学校百年史編纂委員会 (1976). 『松江北高等学校百年史』島根県立松江北高等学校.
- 尚志会 (1894). 『尚志会雑誌』(岡山中学校同窓会会報)第 27 號. 尚志会.
- 山口県立山口高等学校百年史編纂委員会(編) (1972). 『山口県立山口高等学校百年史』山口県立山口高等学校開校九十五周年記念事業会.
- 前田和男(編)(1988). 『高知追手前高等学校資料集 第一巻』高知県立高知追手前高等学校.